



特定非営利活動法人

川口市民防災ボランティアネットワーク

号数：第 10 号

発行：2009.01.01

NPO法人

かわぐち防災ネット

TEL :048-294-4830

<http://www.kawaguchi-bousai-net.jp>



青少年ボランティアスクール

「防災まち歩き」七月
中・高・大学生参加
「本一通り」を3班に
分かれてまち歩きを
行いました。
若者たちは次世代の
中心的存在です。



本年もよろしくお願ひします

平成二十一年 丑

NPO法人 かわぐち防災ネット
代表理事 大羽賀 秀夫



みんなで守ろう、わが家、わが町、わが学校

「記念防災研修会」七月
若者たちが参加！
市立川口総合高校
市立看護専門学校
市立医療センター
早稲田大学災害対策
学生チーム

防災分野に新しい動きができました。川口市内及び隣接市から「講演」依頼 大学生を交えフィールドワークの打診 地域の防災担い手の養成ほか。県では「震災復興まちづくり(仮称)プラン」の準備が進められています。「地域活動の支援」や「テーマ活動の支援」に向けて全会員で応えていきましょう！



8月南区大田窪「防災まち歩き」
主催：さいたま市南区民会議
スケジュール(8月～10月)
(1)「福祉施設防災アンケート」
(2)「避難所宿泊訓練」
(3)「報告会」



12月 NPO・大学シンポジウム
NPO 活動推進課
第2セッションで事例発表
タイトル「これまでの歩み
これからの歩み」
獨協大学ほか6団体参加



9月横曽根「防災講習会」
主催：横曽根コミュニティの会
(1)「防災：自助・共助・公助」
(2)「家具止め、AED、非常食」



12月堀切「復興まちづくり」
主催：葛飾堀切自治連合会
支援：災害復興〃支援機構
全4回(11月～1月)

－ 復興まちづくり：東京都の事例(3-1) －

東京都策定「震災復興への備え」の概要（抜粋）を見てみましょう。

阪神・淡路大震災を検証し、東京都として新しい「共助」の仕組みが提案されている「東京都震災復興マニュアル（平成15年3月）」を策定。

- (1) 東京都震災復興マニュアルは、「復興施策編：行政担当者向け実務手引書」と「復興プロセス編：被災者行動指針」から構成されている。
- (2) 大震災の復興には、「都民一人ひとりの力」「都民相互の助け合う力」「NPO やボランティアの力」「行政の力」の結集が必要とされている。

(1) 「震災復興」とは？

「震災によって大きな変容を迫られた社会の中で、被災者が生活の変化にうまく適応するための営み」と意味づけされている。

自助：まず被災者自らが立ち上がることが必要です。

共助：個人の力では解決困難な課題には「地域が持っている力（地域力）」を活かした住民主体の復興が大きな力を発揮します。

公助：行政は、この力を助け、支えます。

(2) 復興を進めるための5つ視点

復興の到達点を被災者と共有するために「復興の基本目標」を明確にし、目標達成のための5つの視点を定めている。

- (1) 自助・共助に基づく住民主体の復興と公助による支援
- (2) 被災者の状況に応じた多様な復興プロセスへの対応
- (3) 本格復興までの暫定的な生活の場の確保
- (4) 平常時からの地域づくり活動
- (5) 震災復興グランドデザインに基づく都市復興と総合的な地域づくり
震災復興グランドデザインとは、迅速かつ計画的な復興が図れるよう、予め復興都市づくりの在り方を都民と共有しておく事を目的に、東京都が作成したものの（平成13年5月）

(3) 被災者の思いに応える5つの方針

- (1) 地域住民の復興活動への支援
- (2) NPO 等による支援体制の整備
- (3) 暫定的な生活の場づくりの応援
- (4) 本格復興までの連続的な復興の推進
- (5) 多様な事業主体や手法による居住の確保

次号に続く